



## 古典芸能研究センターからの お知らせ



### 古典芸能研究センターリニューアル



資料室2

### 新生古典芸能研究センターが目指すもの

神戸女子大学古典芸能研究センターでは、研究プロジェクト「日本古典芸能の横断的総合的研究拠点の形成」が、平成25年度文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択され、その一環として施設をリニューアルしました。資料室と閲覧スペースを広げ、落ち着いた見学できる展示室も新たに設けました。

本学が位置する兵庫（摂津・播磨）は民俗芸能の宝庫であり、様々な芸能の源を考える上で重要な地です。こうした立地条件に加え、本学では日本有数の古典芸能関係の貴重なコレクションを所蔵しています。

この研究プロジェクトでは、本学がもつこれらの資産を生かした研究拠点づくりを目指し、5ヶ年の研究計画を実施します。研究会や講演会・シンポジウムの開催、刊行物の発行など、詳しい情報は、古典芸能研究センターホームページで随時公開します。そのための重要な足掛かりとして、新しい施設を大いに活用していきたいと考えています。



展示室



資料室1

## 古典芸能研究センターリニューアル記念講演

古典芸能研究センターのリニューアルを記念して、6月7日(土)、教育センターで、「古典芸能研究の未来」と題する講演会を開催しました。センターが総合的研究を目指す中世芸能、近世芸能、民俗芸能の三つの視点から、これまでの蓄積をどのように研究の未来につなげていくことができるか、舞楽の実演、記念講演、展示見学を通じて参加者と共に考えました。

神戸女子大学古典芸能研究センターリニューアル記念講演

### 「古典芸能研究の未来」

日時：平成26年6月7日(土) 13:00～17:00

場所：神戸女子大学教育センター5F特別講義室

#### ○舞楽「蘭陵王」実演

北野天満神社宮司 佐藤 典久

#### ○講演会「古典芸能研究の未来」

- ・中世芸能の視点から  
大谷 節子(古典芸能研究センター兼任研究員・本学教授)
- ・近世芸能の視点から  
阪口 弘之(古典芸能研究センター特別客員研究員・本学名誉教授)
- ・民俗芸能の視点から  
川森 博司(古典芸能研究センター長・本学教授)

#### ○展示見学<非常勤研究員による展示解説>

#### リニューアルオープン記念展示

場所：古典芸能研究センター2F展示室

会期：平成26年6月7日(土)～8月8日(金)

時間：10:00～17:00(木・土・日曜・祭日休室)



川森博司センター長の講演の様子



展示見学の様子

## グランフロント大阪ナレッジキャピタル「ACTIVE Lab.」

### 「はじまりの芸能—古典芸能研究の神戸女子大学」として出展・展示

平成26年5月22日(木)から6月10日(火)の期間、大阪市北区のグランフロント大阪ナレッジキャピタル「ACTIVE Lab.」で開催された「『大学都市KOBE!発信』プロジェクト～好奇心を創り出す都市と大学～」に、古典芸能研究センターが「はじまりの芸能—古典芸能研究の神戸女子大学」というテーマで出展しました。

当センターの長年にわたる研究の成果と資料をもとに、「沖縄祭祀資料データベース」から沖縄の祭りをダイジェストにまとめた約10分の動画を常時放映し、「喜多文庫民俗芸能資料データベース」から兵庫県の名代表的な民俗芸能の写真パネル(翁舞、田楽、鬼の芸能)を展示しました。

土曜日・日曜日の午後には、当センターの研究員が交替で、能・狂言・文楽・歌舞伎といった舞台上で上演される伝統芸能の根源「はじまりの芸能」を探るうえで、沖縄の祭祀芸能や民俗芸能が重要であることを解説し、来場の皆様は熱心に耳を傾けました。



展示の様子

## 平成26年度 科学研究費助成事業採択状況

平成26年度の科学研究費助成事業について、本学園の採択件数は大学32件(継続23件、新規9件)、短期大学1件(継続1件)でした。科学研究費助成事業は、人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までの「学術研究」を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」です。独創的・先駆的な研究であるかの審査を経て採択された研究に対して助成が行われます。神戸女子大学の採択金額の合計は42,770千円であり、増加の一途を辿っています。

平成26年6月現在

研究種目	研究代表者	研究課題名
基盤研究(B)	文学部・教授 大谷 節子	能・狂言面の創出と派生に関する学際的研究
基盤研究(C)	文学部・教授 木下 由紀子	世紀転換期における形而上的文化交流の形—岡倉天心とヴァーヂニア・ウルフの芸術観
基盤研究(C)	文学部・教授 大橋 喜美子	幼保一体化に向けた保育カリキュラム・モデルの構築
基盤研究(C)	家政学部・教授 山根 千弘	ナノ食品—木質バルブから構造制御されて得た機能性食品材料—
基盤研究(C)	家政学部・准教授 木村 万里子	雑豆由来オリゴ糖鎖の機能性開発と食品への応用
基盤研究(C)	家政学部・准教授 大森 正子	脳機能維持・向上に関わる手芸活動の重要性に関する研究
基盤研究(C)	家政学部・准教授 高野 隆子	簡易型高齢女性サーマルマネキンによる着装時の人体—被服間の空気層の計測
基盤研究(C)	家政学部・教授 後藤 昌弘	ジャガイモの品種による物理化学的特性と食味におよぼす要因に関する研究
基盤研究(C)	家政学部・教授 佐藤 勝昌	保育所における食物アレルギー児に対する給食の栄養評価に関する研究
基盤研究(C)	家政学部・教授 栗原 伸公	カプサイシン、ジンゲロール摂取による高血圧予防のメカニズム
基盤研究(C)	文学部・教授 森 尚也	ベケット作品／草稿におけるテキストと図：ライブニツ的組み合わせ術と存在論の研究
基盤研究(C)	文学部・教授 三保 忠夫	宮内庁書陵部所蔵鷹書についての日本語学的研究
基盤研究(C)	文学部・准教授 吉村(森本) 真美	19世紀イギリスの植民地間ヒト移動と帝国ネットワークの形成
基盤研究(C)	文学部・准教授 野口 和美	米国パブリック・ディプロマシーにおけるフィランソロジーと政府の連携に関する研究
基盤研究(C)	健康福祉学部・准教授 津田 理恵子	懐かしさを活用した生きがいの維持・向上—元気高齢者と虚弱高齢者への支援—
基盤研究(C)	健康福祉学部・准教授 佐藤 賢子	食事管理を必要とする慢性疾患患児に対する保育所・学校の給食整備に関する研究
基盤研究(C)	健康福祉学部・教授 小笠原 慶彰	大大阪期の企業家による社会事業への貢献に学ぶ企業の社会的責任の研究
基盤研究(C)	家政学部・教授 田中 紀子	季節変化および食生活・生活習慣に起因するエネルギー代謝変動の定量化
基盤研究(C)	家政学部・教授 狩野 百合子	エキストラバージンオリーブ油の食習慣に基づいた複合的栄養機能の解析
基盤研究(C)	文学部・教授 水瀨 朋枝	全集未収資料集の作成による藤村研究の再構築
基盤研究(C)	健康福祉学部・教授 植戸 貴子	親による障害者殺害の予防策に関する実証的研究：知的障害者の親の子離れ支援
基盤研究(C)	健康福祉学部・教授 吉川 豊	糖尿病克服を目指した有機・無機ナノ複合体である高活性金属錯体の探索研究
基盤研究(C)	健康福祉学部・教授 藤田 冬子	介護者のためのエンハンスメント・プログラムの評価
基盤研究(C)	文学部・教授 狩野 恭	8—10世紀インドにおける主宰神論争史研究
基盤研究(C)	文学部・教授 山内 晋次	火薬原料の国際流通からみた前近代の日本とユーラシア
基盤研究(C)	文学部・教授 松下 孝昭	日露戦後における軍隊の立地と遊廓をめぐる都市地域社会
基盤研究(C)	文学部・教授 今井 修平	播磨国小藩領における地域社会構造の歴史的研究
基盤研究(C)	家政学部・教授 置村 康彦	分岐鎖アミノ酸の筋萎縮抑制作用の基盤を形成する成長ホルモンの役割
基盤研究(C)	文学部・助教 中村 平	台湾先住民の「民族」自治：中国と周辺地域における脱植民化
基盤研究(C)	文学部・非常勤講師 李 春子	東アジアの「水」を巡る「伝統の森」の文化の資料化
基盤研究(C)	文学部・准教授 久野 和子	「場としての図書館」の統合的研究：日本の新しい21世紀型図書館パラダイムの提唱
基盤研究(C)	幼児教育学科・准教授 高山 由佳子	日本における児童虐待ケースに対する区分対応システムの開発的研究
挑戦的萌芽研究	家政学部・教授 上野 勝代	精神障がい者のための先進的居住システムに関する研究

※ゴシック文字は今年度新規採択(9件)

## 研究紹介

神戸女子大学文学部 史学科 今井 修平 教授

神戸女子大学文学部 史学科の今井 修平教授は日本近世史が専門です。「都市史」「地域史」「商品流通史」をキーワードに江戸時代の研究を続けています。

「大阪歴史学会」の代表委員(平成24年6月から2年間)も勤め、平成26年4月26日(土)に、同学会主催の現地見学検討会「在郷町伊丹の歴史と発展―国指定文化財旧岡田家酒蔵築340周年記念―」ではパネリストとして登壇し「在郷町伊丹研究の成果と課題」と題して講演しました。

科学研究費助成事業による研究としては、平成22～24年の基盤研究(C)研究課題名「畿内近国小藩領における大庄屋機能の研究―播州福本藩領鶴野金兵衛家の活動を中心に―」に続き、今年度も研究課題名「播磨国小藩領における地域社会構造の歴史的研究」が基盤研究(C)の分野で採択となりました。



### 科学研究費助成事業による今井教授の研究概要

前回採択の「畿内近国小藩領における大庄屋機能の研究―播州福本藩領鶴野金兵衛家の活動を中心に―」では、鶴野金兵衛家の文書、領域内の村方文書、寺院文書や鳥取や岡山に残されている藩主池田家の関係史料を収集・分析して、小規模な封建領主支配を支えた大庄屋機能と役割を解明しました。小藩領の家臣団編成や年貢取収の特性、領地を超えた経済活動、さらに幕府の広域行政との関わり的一端が明らかになりました。

今年度採択の「播磨国小藩領における地域社会構造の歴史的研究」では、研究対象を播磨全域に広げ、小藩領を流域社会と領域社会という二つの概念で捉えなおし、播磨国の特性解明を試みます。

### 今井教授の学外の研究活動

NHKの大河ドラマ「軍師官兵衛」に関連して伊丹市が取り組んでいる「いたみ官兵衛プロジェクト」に協力して、昨年11月に京都市の相国寺光源院に所蔵されている古文書を調査し、秀吉の軍師であった黒田官兵衛が、かつて自分を幽閉した荒木村重宛に送った後年の書状について「文面から遺恨は感じられず、幽閉後の二人の仲が伺える」と評価したことが、マスコミ各社から報道されました。

続いて1月25日(土)には伊丹市立図書館「ことば蔵」において「豊臣政権成立期の官兵衛と村重」という演題で講演しました。

## 神戸女子大学 平成26年3月卒業生 国家試験の結果について

第28回 管理栄養士国家試験	受験者数	合格者数	合格率
神戸女子大学	171	164	95.9%
管理栄養士養成課程(新卒)	8,614	7,857	91.2%
全国合計	21,302	10,411	48.9%
第16回 精神保健福祉士国家試験	受験者数	合格者数	合格率
神戸女子大学	12	10	83.3%
保健福祉系大学等(新卒)	2,018	1,330	65.9%
全国合計	7,119	4,149	58.3%
第26回 社会福祉士国家試験	受験者数	合格者数	合格率
神戸女子大学	46	26	56.5%
福祉系大学等(新卒)	10,226	4,268	41.7%
全国合計	45,578	12,540	27.5%

## 大学院情報 学位取得者及び学位論文(概要)

### 平成25年度 博士学位取得者 博士論文概要

平成25年度は、神戸女子大学大学院家政学研究科 食物栄養学専攻に以下の4名から学位論文が提出され、博士(食物栄養学)の学位が全員に授与されました。

平成25年9月23日 岩田 恵美子氏(論文博士)

平成26年3月17日 佐藤 誓子氏、海崎 彩氏、大瀬良 知子氏(課程博士)



#### <論文博士>

**岩田 恵美子 (指導教員:堀田 久子教授)**

**論文題目:「野菜・果物未利用部位から抽出した食物繊維の新規機能に関する研究」**

温州ミカンのアルベド(中果皮)や、ヤマイモやサトイモの皮、エンドウ、ソラマメのさやなどから総食物繊維(不溶性食物繊維と水溶性食物繊維の混合物)を抽出した。そして、抽出した総食物繊維をそれぞれ培地に添加してビフィズス菌の培養を行い、増殖率が最も高かった温州ミカンのアルベド由来総食物繊維(アルベドTDF)を飼料に混合してラットに摂取させた。アルベドTDFを含まない飼料を食べたラットと比べた結果、アルベドTDFを摂取したラットでは盲腸内容物中のビフィズス菌の検出率が大幅に増加し、血清中に含まれる脂質の中でトリグリセリド(TG)濃度だけが有意に低下した。血清中のTG濃度だけに

低下効果がみられた原因を明らかにするため、温州ミカンのアルベドから水溶性食物繊維(アルベドSDF)を抽出し、腭リパーゼの酵素反応に添加し活性を調べた。その結果、アルベドSDFの添加量が増えるほど腭リパーゼの活性が低下した。さらにラットの糞便中の総脂質濃度がアルベドTDF摂取群で有意に増加していたため、摂取した脂質が消化吸収されずに排泄され、血清中のTGだけが有意に低下したと考えられた。

本研究により温州みかんのアルベドに含まれる食物繊維には、ビフィズス菌増殖促進効果と血清中のTG濃度を低下させる2つの生理活性があることが明らかになった。



#### <課程博士>

**佐藤 誓子 (指導教員:梶原 苗美教授)**

**論文題目:「保育所における食事・栄養管理を必要とする児童への給食対応と給食の栄養評価に関する研究」**

保育所における食事・栄養管理を必要とする児童への給食対応を明らかにすること、及び児童が摂取している給食の栄養量を評価することを目的とした。

食物アレルギーに関連しない体調不良・病児及び食物アレルギー児への給食対応に関する検討では、神戸市内の公立及び民間保育所に対して質問票調査を行った。食物アレルギー児が摂取している給食の栄養評価に関する検討では、神戸市内の民間保育所から1ヶ月分の非食物アレルギー児のための基本献立表及び食物アレルギー児のためのアレルギー対応献立表を直接入手し、これらの献立表から1食あたりの給与栄養量を算定した。

食事・栄養管理を必要とする児童への給食

対応の検討によって、保護者からの具体的な要望や給食提供側の配慮、工夫、代替食の例を明らかにした。また、食事・栄養管理を必要とする児童への給食の栄養評価の検討によって、食物アレルギー児のうち、牛乳・乳製品アレルギー児においてのみ、給与栄養量が不足していることを明らかにした。従って、牛乳・乳製品アレルギー児に対する食事提供の際には、成長の遅延などを招来させる可能性もあることから、更なる栄養学的な配慮が必要である。

本研究で得られた知見は、今後の保育所における食事・栄養管理を必要とする児童の食事計画の立案の際に有用な情報となり得るものとする。



<課程博士>

海崎 彩 (指導教員:田中 紀子教授)

論文題目:「夏季暑熱環境下における食物摂取の変化が若年運動選手の体格に及ぼす影響とエネルギー代謝との関連」

気候と食物摂取の関係は古くから研究され、気温が高いと食物摂取は少なく、低いと多くなることが知られている。夏季暑熱環境下で運動選手に食物摂取の減少が起こると、筋量が減少し、体力や運動パフォーマンスに影響を及ぼす可能性がある。高校野球選手42人を対象に夏季の食物摂取の減少について調査し、体格に及ぼす影響を調べて、安静時エネルギー代謝量(REE: resting energy expenditure)や、甲状腺ホルモンとの関連を調べた。

夏季のエネルギー(E)摂取の減少は約70%の選手で起こった。E摂取が減少した選手は、エネルギー

バランスが大きく負に傾き(約-700 kcal)、体重・上腕周囲長が有意に減少し、体格に悪影響を及ぼした。食物摂取の減少をREEから調べたところ、夏季の食物摂取の減少は運動量ではなく、むしろREEの低下と関連することが考えられた。一方、REEと甲状腺ホルモンとの関連は、夏季にはなく、冬季には関連があった。

本研究より、夏季暑熱環境下において運動選手にE摂取の減少が起こると、体格に影響を及ぼすことがわかった。夏季に食物摂取の減少を起こさないような栄養教育を行うことが重要であると考えられた。



<課程博士>

大瀬良 知子 (指導教員:栗原 伸公教授)

論文題目:「Relationship of mothers' food preferences and attitudes with children's preferences.」

本研究は、多重ロジスティック回帰分析を用いて、母親の食嗜好と生活習慣・食習慣が幼児の食嗜好に及ぼす影響について検討した。

人々が将来健康に過ごすためにはバランスよく食事を摂取する必要があり、バランスよく食事を摂取するためには、食嗜好が重要である。幼児の食嗜好には、生得的に持つものと後天的に獲得するものがあるが、どちらが強く幼児の食嗜好に影響するかは明らかになっていなかった。

調査の結果、幼児期に偏った食嗜好を持って

いた母親の子どもは、同じ時期に偏った食嗜好を持つ割合が高い可能性が示された。ただし、幼児の食嗜好には母親や幼児の生活習慣や食習慣も強い影響を及ぼしていることが示されたことから、この食嗜好は後天的に補正していくことが可能であるものと考えられた。

本研究により幼児の食嗜好改善のための示唆が得られたものと考えられるが、引き続き、将来人々が健康に過ごすために幼児期に正しい食習慣を身につける事の重要性を明らかにしていきたいと考えている。

## 教員の著作紹介

神戸女子大学 文学部 史学科  
松下 孝昭教授(日本近現代史)

軍隊を誘致せよ  
—陸海軍と都市形成(歴史文化ライブラリー)  
2013年11月刊/274ページ/吉川弘文館



「誘致」はその時代の夢を映し出します。日清・日露戦争後、全国で軍隊誘致運動が起こりました。「軍隊の誘致」という意外な面から、住民が軍隊と共存しつつ都市形成と振興をめざした姿に迫っています。

神戸女子大学 文学部 史学科  
小林 善文教授(東洋史)

中国の環境政策(南水北調)  
—水危機を克服できるのか  
2014年1月刊/324ページ/昭和堂



水資源の偏在する21世紀初頭の中国における、大規模な自然改造計画のもつ問題点を、移民問題や生態環境回復政策の可否、自然保護の取組み、河川管理のあり方などの多様な側面から考察しています。



## 国際交流

教育研究活動

## 交流年表

(姉妹提携等)

1983年	ハワイ大学(米国)	2007年	チェンドラワシ大学(インドネシア)
1993年	ケント大学(英国)	2010年	ウダヤナ大学(インドネシア)
1997年	フライブルク大学(独国)	2010年	西安工程大学(中国)
2000年	華南師範大学(中国)	2010年	カセサート大学(タイ)
2006年	ガジャマダ大学(インドネシア)	2010年	高麗大学(韓国)
2006年	オークランド工科大学(ニュージーランド)	2011年	チェンマイ大学(タイ)
2006年	ピッツァー大学(米国)	2011年	カリフォルニア州立ポリテクニク大学ボモナ校(米国)
		2012年	アイルランガ大学(インドネシア)

## ケント大学長期留学生の報告



ケント大学英語研修(3週間)の引率で訪れた  
ジェームス・クロッカー講師と再会した鶴田麻衣さん

れて寝る時間を削るほど忙しい生活が続きました。

9月からはケント大学の学部の授業を履修し、本格的な講義を受けました。前期は文学を受講し、英語での読み書きをさらに磨き、他に、日本でも受講していた中国語の授業も受けました。後期は、言語学で文法を学び、引き続き中国語も受講しました。

1年間の留学を終えて鶴田さんは語学力が飛躍的に向上したことはもちろんですが、イギリスの伝統を尊び古いものを大切にす文化に共感を覚えるようになりました。そして何よりも、初めて実家を離れ寮生活をし、生活のすべてを自分で行った結果、精神的なたくましさや冷静に落ち着いて対処できる力が身につきました。

クラブ活動では陸上部に所属し、練習での部員との交流を楽しみました。今後は会話力をさらに身につけ、英語を生かせる仕事に就きたいと思っています。

イギリスのケント大学に留学していた神戸女子大学文学部 英語英米文学科の4年生鶴田 麻衣さんが、1年間の留学を終えて2014年4月に帰国しました。

鶴田さんが留学したのは世界各国から留学生が集まるJunior Year Abroad (以下JYA) English PLUSというコースです。鶴田さんは約300人の留学生と留学生生活をスタートしました。

JYAの学生は、まず、ケント大学の授業についていくための英語力を身につける集中コースで学びます。最初の6週間は文法をマスターすることから始まり、ディスカッション、ライティングの授業を受講しました。次はリーディングの課題を中心に、英語の聞く力と書く力の向上に専念しました。毎日多くの課題が出さ



ライブラリー・commonsで  
ケント大学の資料を前に体験を語る鶴田さん

## ローターアクトクラブ フィリピン台風災害支援 バンカーを寄付

2013年11月、フィリピン中部を直撃した超大型の台風は、規模・被害とも過去最大級のものでした。被災者の生活再建への道のりは依然として厳しい状況が続いています。

神戸女子大学ではローターアクトクラブ(注)の学生が、少しでも現地の人々の役に立ちたいという思いから、観光・漁業に必要なバンカーという船を送るために募金活動を学内・学外で行いました。

4月には、バンカーを作るための目標金額(17万6千円)が

集まりました。今から19年前に阪神・淡路大震災で、世界中の人々から暖かいお見舞いの言葉や支援をいただいた神戸の地から、復興の願いをこめて寄贈したバンカーは、「神戸女子大学号」と名前がつけられ現地で活躍しています。

(注)ローターアクトクラブはアメリカ発祥のロータリークラブを母体とした、国際交流や地域貢献を通して社会のリーダーとなるべく人材を育成することを目的としたクラブです。第2680地区の神戸須磨ロータリークラブをスポンサーとして発足しました。神戸女子大学ローターアクトクラブは2006年に発足した後、2012年にクラブに昇格し活動を広げています。



寄贈したバンカー「神戸女子大学号」



クラブの例会での募金活動の報告



募金活動をしている学生

## 国土交通省 公共交通機関等におけるベビーカー利用に関する協議会での活動

近年、公共交通機関の旅客施設などにおいてエレベーターなどのバリアフリー整備が進んでいます。ベビーカーを広げたままでの移動がしやすくなったことなどから、鉄道やバスでベビーカーを利用する人は大幅に増加し、それに伴いベビーカー利用にまつわる事故やトラブルも発生しています。

国土交通省は平成25年6月、ベビーカーを使用しやすい環境づくりに向けて必要な事項を協議するために、学識経験者、子育て等関連団体、交通事業者、行政機関などの実務者からなる委員で構成された「公共交通機関等におけるベビーカー利用に関する協議会」を設置しました。

この協議会に神戸女子大学家政学部の西本 由紀子助手が学識経験者として選ばれ、国土交通省の政策に協力しました。

西本助手は公共交通機関におけるベビーカーの利用実態や利用者を取り巻く環境、ベビーカーを利用しない周囲の人々の意識などについて調査・研究を行っています。施設・設備などの物理的なバリア(壁)や、周囲の人々の意識の差から生じる心理的なバリア(壁)の解消を目指し、ベビーカー利用者に正しい使用を呼びかけることの必要性や、様々な世代や立場の人々が快適で安全に公共交通機関を利用するための方策を提案してきました。

国土交通省は、協議会の検討報告を受け平成26年3月26日(水)に、ベビーカーの安全な使用とベビーカー利用への理解・配慮を求めするための「ベビーカー利用にあたってのお願い」及び「ベビーカーマーク」を公表しました。

西本助手は、「相互理解が深まり、ベビーカーが安全に利用できる環境が整備されることは、子育て支援にもつながります。今後はそれらがどのように普及啓発されていくのか、社会に及ぼす影響や効果を調査し研究を進めたい」と語っています。



西本由紀子助手と「ベビーカー利用にあたってのお願い」のポスターと「ベビーカーマーク」

## 理科実験教室へ化石・岩石標本が寄贈される

平成26年3月に、神戸女子大学の名誉教授後藤 博彌先生と波田 重熙先生から、貴重な化石・岩石標本を寄贈していただきました。

お二人の先生方は、専門が地球科学で、在職中に教育学科の「理科概説」「理科教育法」などの小学校教諭の資格に必要な科目を担当されました。地球環境の変遷と変動帯の形成・発展に関する研究の権威でもあります。

神戸女子大学は「私立大学学術研究高度化推進事業」の一つであるオープンリサーチセンターの選定を平成13年に受け、研究成果を広く公開してきました。お二人の名誉教

授と現在の理科教育関連科目の担当である村田 恵子助教は、「東南アジアの地球環境の変遷」を分担し、現地調査も実施されました。今回、同センターに当時展示をされていたものに、教員採用試験に出題されることの多い示準(標準)化石を加えて、化石を中心に約110点の化石・岩石標本を寄贈していただきました。見学者が理解しやすいように陳列され、説明のプレートも波田先生が作成されました。

お二人の先生方は、「教科書に載っていても実物を見る機会の少ない貴重な化石・岩石の標本なので、教育学科の学生はもとより他学科の学生にもぜひ見て欲しい」と語っておられます。



寄贈された化石・岩石標本の展示の様子



展示物:マンモス象の臼歯化石(新生代の示準化石)



展示物:世界最古(38億年前)の燧岩(れきがん)(先カンブリア時代)